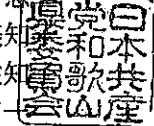


2023年2月16日

JR西日本本社 社長 長谷川一明 殿  
JR西日本和歌山支社 支社長 金岡 裕之 殿

わかやま線・布施屋駅 田井ノ瀬駅、紀勢本線・宮前駅、阪和線・紀伊中ノ島駅の駅のトイレ、ホーム屋根等についての要望書

日本共産党国会対策委員長 衆議院議員 こくた 恵二  
日本共産党和歌山県政策委員長 松坂 美知郎  
和歌山市議会議員 森下 佐知子  
同 井本 有一



日頃、国民の大切な公共交通機関として尽力されておられることに敬意を表します。

貴社は、「駅のコンパクト化」を推進する中で、和歌山線布施屋駅・田井ノ瀬駅の改修とともに、旧駅舎の撤去、トイレやホーム屋根まで撤去をおこないました。利用者の利便性が損なわれていることは明らかです。

布施屋駅近くの方からは「トイレを借りに来られて困っている」という声をお聞きしました。駅周辺に排泄物を見たという声もあります。布施屋駅は熊野古道の拠点の駅ともなっており、そのイメージを壊してしまいかねないゆゆしき事態です。

また、ホームに屋根がなく待合も小さいため雨の日には傘をさして電車を待ち、ずぶ濡れのまま電車に乗り、周りにも迷惑をかけ、そのまま職場へ学校へと行くことになり、強い改善要望が出ています。

紀伊中ノ島駅も同様の計画とお聞きしました。

日本共産党が布施屋駅・田井ノ瀬駅で行った利用者へのアンケートでは、8割以上の方が「トイレが必要」「ある方が良い」、9割以上の方が「屋根が必要」「ある方が良い」と答えています。いま、公共施設の生理用品の設置など、「トイレは人権」という声と運動が広がっています。JR西日本本社は、「うめきた（大阪）地下街トイレをデラックス化」するとしています。和歌山市でのトイレ撤去とは余りにも差別的な扱いです。トイレ撤去は「トイレは人権」の流れに逆行し、人権問題そのものだと言わざるをえません。

JR西日本が1月31日に発表した2022年4月～12月の連結決算は、純損益が873億円で3年ぶりの黒字に転化しました。21年度の内部留保も7417億円にのぼります。トイレ、屋根設置など、利用者サービス向上に一部を振り向けるべきではないでしょうか。利用者から愛され、気持ちよく利用できる駅が求められると考えます。よって、下記の項目について要望いたします。

## 記

1. 貴社は、駅舎の「シンプル化」を方針とされ、「駅舎設備の更新」を打ち出しておられます。トイレ、屋根の撤去は方針なのですか。すでに実施されたトイレ、屋根の撤去がどれだけの財政的メリットがあるのか明らかにされたい。
2. シンプル化の今後の計画を明らかにされたい。少なくともトイレ、屋根の撤去はおこなわないでください。
3. 貴社は、「CS ビジョン2022」で「お客様に“JRファン”になっていただくことが目標」としています。トイレ、屋根の撤去と相容れないのではないかでしょうか。
4. すでに撤去したトイレと屋根を復活されたい。
5. 紀伊中ノ島駅のトイレを改修されたい。
6. すべての駅にトイレを設置されたい。
7. 駅を中心とした観光振興、まちづくりについて、沿線自治体と協議し、知恵と力を發揮されたい。

以上